

人ホームのようなものが必要になっていく。その中でも、地域の人々と接し合える老人ホームがふえていくといいなあとと思いました。

- ・「ちぎれ雲」を見て、年をとって全て自分一人でものごとができなくなった老人の人がかわいそうになった。老人にとってホームヘルパーなど介護してくれる人やまわりの人がとても大切なんだなと思う。老人ホームも100%めんどろをみれるものでないし、多人数で暮らす不満もたくさんあるのかなあと、とても学ぶ事の多い映画鑑賞会だったと思う。

第二中学校

- ・映画とおなじことが現実になっているなんて大変だと思った。一部のお年寄りは老人ホームでただ死んでしまうのを待っているなんていやだと思った。かわいそうだと思った。でもみんないずれば年寄りになってしまうのにどうしてお年寄りのことを考えてあげないんだろうと思った。自分が年寄りになって年寄りの気持ちが分かってもおそいのになあと考えた。(2年)
- ・高齢化社会が進むといわれているが私はあまり興味を持てなかった。「ちぎれ雲」を見て高齢化社会がいっきに近づいたように思う。だから両親のこと、祖母こと、そして自分のことが心配になった。自分も老人介護について、少しずつ知識を増やしていかなければいけないと思った。(3年)

- ・私の家にもおじいちゃんとおばあちゃんがいます。もし私のおじいちゃんかおばあちゃんが映画と同じようになったら、老人ホームに行くのか、家で世話をするのかなんて、考えた事ありませんでした。これから考えて見ようと思います。(2年)

- ・私のひいおばあちゃんも寝たきりだったからたまに会いに行ってお話とかしてあげたけど、やっぱり面倒くさいとか思っていたから今日映画を見ておばあちゃんたちも体が自由に動かせないだけで話したり、年を取ったって結婚もできるんだからもっとたくさん話をしたり、お世話を手伝ったりすれば良かったと思った。それからお父さんやお母さんが寝たきりになったときも、施設に入れたりせず、いままでお世話になった分いっぱい優しくしてあげようと思います。(1年)

- ・私は「ちぎれ雲」という映画を観て気づきました。人間は、一人では生きていけない。誰かがいないと生きていけない。話をしたり、怒ったり、泣いたり、笑ったり、誰かがいないとどれでもないことです。一人一人が協力してできること、協力しないとできないこといろいろあります。

今回の映画は老人介護についてでした。年をとれば寝たきりになる人、ボケてしまう人も必ずいます。こんな老人を老人ホームにまかせっきりにするなんて少しかわいそうだと思います。こういふときこそ家族の人などと、一つになって協力することが大切なんだなあとと思いました。

- ・私は「ちぎれ雲」を観て、老人介護について一つ知ったことがあります。老人ホームに勤めるために資格が必要だということです。今までは「老人ホームに勤めたい」と言えば、誰でも勤められると思っていました。でも、学校で勉強したり、試験を受けたりして、やっと勤められると知りました。

もう少し月日が過ぎ、私の父や母がおしめをするようになったら、私はどうするでしょうか。もしそうなったら、自分から進んでやれるようになりたいと思います。今日の映画を観て老人の気持ちが分かったからです。そして母や父の居場所を作って上げたいと思います。

第三中学校

- ・僕は、この映画を見て老後を考えさせられました。自分も年をとれば世間からも邪魔者扱いされ、家族からもめいわくがられるのではないかと不安になりました。行きたくもないのに老人ホームに行かされて、つまらない生活をおくるのかと思うと恐ろしいです。でも逆に楽みな面もありました。それは老人になっても楽しく恋愛をして、結婚もできるということです。考えてみればあたりまえのことだけど、やっぱり若い人の特権みたいなイメージがあるからです。

確かに老人になるのは恐ろしいけれど、勇気を出して生きて生きたいです。(3年)

- ・「年はとりたくない!」と私は中学生になってから思うようになりました。やっぱり見た目が変わってしまうのは嫌だし、何より思うように動けなくなってしまうのはつらいです。でも、いつかはそういう日がやって来るのだと私は「ちぎれ雲」を見て実感しました。老人になると家や地域から邪魔者扱いされてしまうという場面は悲しいと思いながら自分がもしそういう立場におかれたらどうなるんだろうという不安もあります。

年を取ることは自然なことでも誰もが経験することです。それに老人は私たちよりたくさんを知っています。その立場を考えて私は老人を尊敬できる人間になれたらいいなと思いました。

早川 龍 雄 君 三条まごころヘルプの内藤さん、華々しくデビューおめでとうございます。

梨 本 清 一 君 お三人のゲストのご来訪を心から歓迎し御礼申し上げます。三団体の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

淵 岡 茂 君 今週末テクノフェアに出展します。金属を強化する研磨材の利用法をPRします。ゴルフのヘッドにも利用されます。ハイズ長岡へお出かけ下さい

(9:30～4:30PM)

山上 茂 夫 君 無断で後から撮らないで下さい。後頭部にも肖像権があります。職場例会マザリ―東病院のスナック…より。

樋口 金 占 君 去る10月21日北クラブゴルフコンペ、にぎりの一部です。BOXへ。

木 宮 隆 君

山 崎 勲 君

西 村 護 君 2回目の代理SAA山中正さんに感謝して。

山 本 賢 君 皆さん地区大会ごころうさまでした。社会奉仕事業、大成功おめでとうございます。

ロータリー財団ボックス：

淵 岡 茂 君 地区大会参加。記念して

来週は財団月間です。是非出席願います。又、本日は社会奉仕の皆様御苦勞様です。財団と社会奉仕に努めています。

安田 貞 夫 君

阿部誠一郎君 財団に協力して。

米山奨学会：

梨 本 清 一 君 米山月間を記念して。

社会奉仕事業「ちぎれ雲～いつか老人介護～」収益金贈呈式：

贈呈団体 地域たすけあいネットワーク 松原マユミ様

今日は私ども「地域たすけあいネットワーク」という組織をみな様にご理解を頂くのにとってもよい機会を与えて頂きましてありがとうございます。

私が在宅介護に関心を持つようになったのはゴールドプランが厚生省から発表されたころだったと思います。そのころは看護婦として働いておりました。

何年も寝たきりだった高齢者を看護学生と受け持ちました。家が農家で春、農業が忙しくなるとリハビリを目的として入院、稲刈りの終わったころに退院をしますが、自宅へは帰らず3ヵ月位老人保健施設に入所、自宅で生活できるのは1月から3月までの3ヵ月位という人でした。

自宅での生活は何時も部屋は一人、寝たきりのベッドの上から外を見ているか、TVを見ていると言っておられたように記憶しています。

偏食はありましたが自分で食事をすることは出来ました。リハビリは棒のようになってしまった足の膝の下にタオルを巻いて入れておくことから始めて、本人は勿論先生をはじめ、理学療法士、看護婦、看護学生と関わりを持つすべての人が言葉にはならないくらい努力をして、ベッドから足を下げて座ることができ、ポータブルトイレでの排泄、自分で車椅子操作が出来るようになりました。ベッドから足を下げて座ることができたときは主治医も手をたたいて喜び、看護学生は涙を流して喜びました、でも自宅での生活は家族の都合で出来ないと言うことでした。自分の身の回りの

事ができれば住み慣れた自分の家での生活は出来るものと考えていた私は「日中一人になるので自宅へは連れて帰れません」身の回りの事をする人がいないのですという家族の言葉を聞いたときの空しさ、と言うか寂しかった気持ちを忘れることが出来ません。

この経験から自分の老後のことを真剣に考えるようになりました。子供にあまり迷惑をかけずわずかな年金で暮らすには？痴呆がでたら何処で、誰に介護をしてもらえるのか？ひとりでは何もできず、悩んでいるうちに数年が経ちました。

3年前、済生会H Pの家庭介護教室で学んだのがきっかけでボランティアをするようになりまし

た。
3月に秋田県鷹巣町の「住民が選択した町の福祉」というドキュメント映画を上映しました。私もボランティアで参加しました。住民によるローキンググループを作り、ホームヘルパーの増員や福祉施設の充実につとめ、日本屈指の住民参加の町をつくりあげた。住民と議会、町長や町のとり組をドキュメントで記録したもの。

鷹巣町の住民をとてもうらやましく思いました。映画を見て下さったある男性の方と「おめえさんたち映画をただけで後はなんでもしねえんだかね？」
「鷹巣町と同じことは出来ないけれど何かをしたいと思っています」
「俺が生きている中になんか間にあわねえこてね」
「頑張って間に合わせます」
こんな会話がありました。映画に参加したボランティアの間で住民参加の「相互扶助でたすけあう会」がどうしても必要と言う声が高まりました。

現代の社会では障害や痴呆の有無に関係なく、お年寄りや、子供を家族のみで支えていくことは大変難しくなっています。

しかし年をとっても、障害があっても、住み慣れた町、住み慣れた家でその人らしく生きたいと思うのはごく当たり前の事であり、家族を含めみんなの願いだと思うのです。

私たちはそんな方のお手伝いをしたいと思ったのです。そして手探りで始めた市民参加の相互扶助の会で資金は0のスタートです。この会の発起人は、自分の仕事を通して、或いは在宅介護の経験からお互いに支えあうケアサポートシステムが必要と考えていた人たちです。思いはあっても素人が、しかも女性ばかりですから……準備会を立ち上げたものの不安で眠れない夜が続いたこともありました。

準備不足のまま7月20日に設立総会を開き「地域たすけあいネットワーク」として、うぶ声をあげ3カ月になりました。9月より活動を開始しましたが発足時、仮の住まいだった事務所も8月には築30年以上たった古い家を格安で借りることができ、TELも入り、家の中も手作りやボランティアで少しずつ整い、会員も提供会員、利用会員、賛助会員含め100人以上になりました。

会員には福祉住環境コーディネイター、生涯学習インストラクター、社会福祉主事、看護婦、保母、調理師、衛生管理社、2級、3級のヘルパーも拾数人となり来年4月導入される介護保険には絶対に必要なケアマネージャーも提供会員として登録があり、ボランティア活動の豊富な人ばかりです。この人材豊富な「地域たすけあいネットワーク」を人々から気軽に利用頂け、親しまれる会にするにはどうすればよいのか？今後の大きな課題と考えております。

9月には16件の仕事の依頼があり、その中には住宅の改装という大きな仕事がありました。痴呆老人の見守り、介護、家事援助、ベビーシッター、移送、配食サービス等の利用者がゆっくりと福祉の輪を広げており、私たちのような会が必要だったことの手ごたえを感じとてもうれしく思っております。ひとりでは何もできないけれど、同じ思いの人が手をつなげば夢を実現することが出来ることを体験しました。

私たちの大きな「夢」……それはNPO法人となり2000年4月に実施される介護保険に間に合うよう、介護保険の認定業者となり利用者に負担の少ない金額で、質の高いサービスを提供することです。その一方で介護保険の認定から外れた高齢者の行政の受け皿になりたい、と考えています。すでにある施設を利用しているが、介護保険では「自立」と判定されると言われたという家族の相談も受けています。

県内では新発田で私たちと同じようなシステムで立ち上げられたグループがあり私どもはネットワークをしています。三条のまごころヘルプ様、民間介護ハウス優、優様とも情報交換などをして、善い意味でのライバルとしてお付き合いを頂きたいと願っております。

最後になりましたが、北ロータリーのみなさまのご指導、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

「地域たすけあいネットワーク」の会員はしっかりと手をつなぎ暖かい手と心を届ける福祉の大きな樹に育ちたいとねがっています。どうぞ暖かい目で見守って頂ければ幸いと存じます。

本日は本当に有り難うございました。

贈呈団体 三条まごころヘルプ 内藤 通様

この度、北ロータリークラブ様のご配慮により、私供、三条まごころヘルプの活動に目を立ててくださり、多大なご寄付を頂戴し、誠に有難く、感謝いたしております。

私が、三条まごころヘルプを開設いたしましたのは、一つには看護婦をして18年間、人の生き死に関った経験がかかると思います。もう一つは昨年の暮れに退職する前5年間、訪問看護の仕事を通して在宅で生活するということと、年を取ってから、どこで、どのように生きるかということ深く考えさせられたからです。そんな折、新潟市福祉公社まごころヘルプ室、室長の河田珪子さんに出逢い、新潟の活動に共感し、三条でもまごころヘルプを展開したいと強く願ったからです。自分が70代、80代になって、身体が不自由になっても慣じみの地域で、我家で、生きいきと暮し、そして最期を迎えられたらどんなに幸福であろうと思えるからです。

三条まごころヘルプの仕組は有償（非営利）ボランティアを住民が会員となって支え合おうというものです。会員の種類は今、手助けが必要な人が利用会員、手助けができる人が提供会員、今は実際参加できないが、主旨に賛同し支援できる個人または団体の方は賛同会員とがあります。

気がねなく本人ができない部分を少しお手伝いすることで、生活がうるおったり、やりたい事ができたり、気持ちが休まったりと、こんな関係を作っていきたいと思っています。

困った事があれば相談できる所があると思うだけで安心できる。電話で声を聞くだけでもほっとできる。そんな会でありたいと考えます。

もちろん一つの組織だけでは担えるものでなく、いろいろな機関と連携していかなければなりません。医療機関や行政、福祉施設など在宅福祉サービスを行っている所と密に連絡を取り合ったり情報交換等も必要となってくると考えます。

まずは、地域の皆様に三条まごころヘルプを知っていただき、いつでも立ち寄ってもらいたいと思っています。来年4月から介護保険が始まり、介護を社会で担う時代となってきました。その時に、選択肢の一つになればと考えています。

どうぞ宜しくお願いいたします。

贈呈団体 民間介護ハウス 優・優 熊倉カズ子様

この度私達はバクマ工業の社長さんから林町にある自宅をかりまして宅老形の介護ハウス優優を7月24日に開所致しました。

来年四月からスタートする介護保険制度の中で在宅介護をひつようとする家族に私達が今何をすべきか考えた時に痴呆症状のあるお年寄が家庭的な雰囲気の中で共同生活を送る場としてお子様からお年寄のケアの柱として自分達の介護のけいけんをいかし期待される優優でありたいと思っています。

優優は民間ですから市内、市外問わずお子様からお年寄の痴呆や障害の有無に関係なく、お受かりする介護ハウス優優です。日常生活のお手伝いをする事により、自分の住み慣れた家のくらしをそのままに実現した宅老形介護ハウスです。

小集団の中で介護をうける事で他人との感情や交流も生まれるよう受け皿となる場所として、お子様の見守り、痴呆老人の見守り、地域の人々から気軽に利用していただき親しまれるパートナー優優でありたいと思っています。

私達スタッフ一同、自分達の実現に向かって歩き始めて3ヶ月になりました。優優が地域の皆様方に親しまれ、お役に立てる事を願っております。

「ちぎれ雲〜いつか老人介護〜」

上映会後寄せられた感想の一部を紹介致します。

大崎中学校

- ・僕はああいう所に行ったことがありました。変な所だなあと感じていました。今日の映画を見て、大変なことをしている所なんだと思いました。お年寄りの人がどんな風に思っていたかわかりました。
- ・一見考えていないようでもしっかり考え、自分がどんなことをしているのかをわかっているようでした。お年寄りを見る目が今日からかわっていくと思いました。
- ・私は将来今日みた映画のような人になりたいと思っています。老人をせわしたり・・・・・・。だから今日こういう映画を見て結構勉強になった。将来もっと老人が増えていったら、もっと老